



約100人が説明を聞いた

# 民間の技術力向上のため

## “施設管理技士”でセミナー

水道O&M研究会



大石代表幹事



山崎調査役

水道O&M研究会（代表幹事＝大石直行月島テクノメンテサービズ副社長）は9日、東京・九段南の日本水道会館で、水道施設管理技士セミナーを開催した。同研究会会員を中心に水道事業者職員ら約100人が参加した。

水道協会の4団体により創設された新たな資格登録制度「水道施設管理技士」の3級資格認定登録の募集が今月から始まり、すでに多くの申請が日本協会のホームページに寄せられている。こうした中、昨年水道施設の運転・維持管理会社20社で設立した同研究会が、

第三者委託制度の運営に欠かせない資格として、主に会員を対象にセミナーを企画した。講師は、同制度の創設に関わってきた山崎優日水協調査部調査課調査役が務めた。

大石代表幹事は「この制度の目的は民間企業の技術力を適正に評価して認定し、技術力の向上を図ること。研究会を設立して半年が経ったが、法に基づいた委託はまだ少ない。この状況から脱し受注を増やすようわれわれはがんばらねばならないが、事業者が民間に委託する要素として『信頼』は大きい。その『信頼』を得るには技術力の向上が重要だ。そのためにも新たな資格でまず3級を取って、これを第1歩にして2級、1級と発展させていきたい。今後この資格制度に

対応できるようにがんばっていく」と制度の意義を強調するとともに今後を展望した。

山崎調査役は、資格認定・登録の募集要領、認定・登録要綱を詳細に説明した。このあと、制度に関してこれまで日本協に寄せられた質問や想定される疑問をまとめたQ&Aを解説、さらに会場からの多くの質問にも答え、制度の仕組みの理解と今後の活用を求めた。